

様式第2号（第5条関係）

事業計画書

事業名称	チロル堂×リングスター～今日、みんなで地球のことを考えよう～		
事業に関わる団体	団体名	役割	
	1. 株式会社リングスター 2. 一般社団法人無限	1. ワークショップ開催 2. イベント運営	
関連するSDGs ※ゴール番号を明記	(4) 質の高い教育をみんなに (12) つくる責任つかう責任 (14) 海の豊かさを守ろう (17) パートナリーシップで目標を達成しよう		
事業内容	(1) 目的 海洋ごみに関する紙芝居形式の講座、ワークショップや参加者同士の交流を通して、海ごみに関して楽しみながら学んでもらう。問題意識を育成し、世界で起きている多くの問題に対する「自分ごと化」として共感するためのきっかけを作る。日常生活で「物を長く大切に使う」「正しくごみを捨てる」意識が促進され、自分たちの行動が自然へ与える影響について理解を深めることにより、将来的な世界の問題解決への意欲を向上させる。また、子ども同士・参加者同士の地域コミュニティの活性化と一体感の向上を高める。 (2) 対象 地域住民全体、特にチロル堂に通う子どもたち、家族連れや自然に関心があり学びを深めたい人たち、地域の小・中・高校生。 (3) 実施方法 ◆リングスター：紙芝居・オリジナルチロル札ケース作り...オーシャンプラスチック、オーシャンバウンドプラスチックの違いや対馬市の海洋ごみ問題について、子どもが見て学べる紙芝居の読み聞かせを行う。また、対馬市に漂着した海洋プラスチックごみを10%配合した製品を使用し、チロル札が収納できるミニケースがデコレーションできるワークショップを開催し、学んだ証として持ち帰ってもらう。実際に漂着したオーシャンプラスチック、原料となるペレットの展示も行い、生駒市から遠く離れた対馬市の海ごみを間近で見ってもらう。 ゴミの学校：リサイクルカードゲーム ◆チロル堂：化学物質アレルギー対応のお菓子作り、エシカルネイルワークショップ、サコッシュ作りワークショップ。 (4) 補助終了後の見通し イベントを通して作成したアイテムを今後も継続して使用してもらうことで、学んだことを反芻する機会とする。チロル堂の集客力とリングスターのプロダクト及びストーリーを使いながら、今後も継続して学びの場を提供していく。		
事業の目標・効果 ※関連するSDGsと 紐づけ、可能な限り 定量的な目標を記載	(1) 目標 1. イベントを通じて、500人以上の子どもたちに海洋ごみの現状や問題点を直接伝え、500個のチロルケースをワークショップで子どもたちに配布する。(製品として手元に残すことで、イベントで学習したことと共に大切にもらう。) 2. チロル堂とリングスターの活動内容を県内外の多くの人に周知し、地域の絆を深めることで活性化を図り、生駒市の認知度向上に貢献する。 (2) 期待される効果 1. 地域住民、特に子どもたちが海洋ごみ問題について自分事として考えるようになり、将来的な問題に対する当事者意識の向上が期待される。 2. 多様なワークショップを通じて、参加者が楽しく学びながら自然に学習への関心を深めることができる。		
事業完了予定日	2024年 9月 30日		

備考	当日はセイセイビル、チロル堂本店で開催予定。
----	------------------------

※補助対象団体だけでなく、本様式に記載する、「事業に関わる各団体」も、実施団体概要書（様式第4号）を提出すること。

※適宜記載欄を拡大し、詳細に記述すること。

※企画書、チラシ等、事業に係る参考資料がある場合は添付すること。